

双三地区医師会館並びに臨床検査センター全景



創刊号

昭和48年11月1日発行
 発行人 得能長絃
 編集人 永井又太郎
 印刷所 広島県双三郡吉舎町
 佐々木印刷株式会社

発刊の辞

会長 得能長絃



この度「巴杏」の発刊を見る事になりました。
 この双三地区医師会の季刊については、鳴戸副会長の発案であり、かねてからこう云うものを発行したいと言う構想を持って居られました。
 他地区の医師会の状態を見ますに、方々の医師会で色々な形の医師会報が出されて居り、多大の努力と多額の費用をかけて出版された立派な会報を送って戴く事があり、「吾々の医師会でもこれに負けないものが欲しいなあ」と思った事が、しばしばありましたが、発行するとなると編集委員の苦勞は大変なものでありまして、一部の人々だけの努力では到底不可能な事で、どうしても全会員の参画と理解が無くては、長く続けて行く事は出来ません。
 この度発刊される会報は、双三地



双三地区医師会 会報創刊に寄せて

三次町
森戸 登守

明治初年頃広島県出身医師有志の医会が東京にあった。その後、明治二十九年東京に於て芸備医学会が創立され、その機関誌として芸備医事が創刊されたが、行事は総て東京に於て行なわれて居た。そして昭和十七年十二月、五五五号を以て終った。

それで昭和二十三年五月二日広島県医師会代議員会に於て、広島医学会が設立可決され、広島医学会が生れ機関誌として広島医学が創刊された。そして県内各地に部会があり、双三地区を中心とし、北部部会があり色々な研究発表がなされている。

此度双三地区医師会報出版を聞き、時宜に適した企画と思ひまして、私共は身近かな色々な出来事を知る事が出来、会員相互のこの上もない幸と思ひます。

関係各理事の容易ならぬ御努力に対し敬虔の意を表するものであります。
どうか、ローカルのものにして頂き、この会報により会員諸士の友情を温め団結を密にし、変転極りなき地域社会の医療問題就中生活保護又は、老人医療の課題並に、やがて来るであろう産業医学特に公害の問題等幾多の課題に対し考えを新にしてこれから諸問題に取り組みねばならぬと思ふ。

学会だより

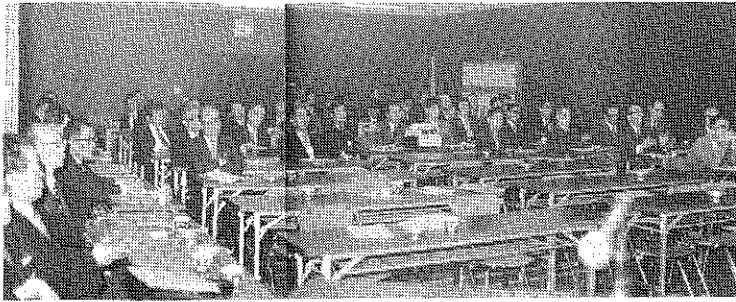
第二十五回 広島医師学会北部支部大会記

— とき・十月二十一日(日) ■ところ・三次市双三地区医師会館 —

県下でも有数の伝統を誇る第二十五回広島医学会北部支部大会は十月二十一日(日)三次市、双三地区医師会館で開催された。その日は、早朝より肌寒い秋雨に見舞われ会員の出足が心配され

たが、開会の午前九時三十分には約五十名の会員が参集した。当日は、甲奴郡医師会の会員が他の会合のため全員欠席されたのは残念で、会場に一抹の寂しさを加えた。学会は定刻、得能会長の開会の辞によって開始され、会員の研究発表は次の十題で演者は左の通りであった。

- 一、急性CO中毒症の一経験例
双三中央病院内科 石田 実
- 二、外傷性右上腕動脈閉塞に対する自家静脈移植の一例
庄原日赤病院外科 太田 保
- 三、インシュリン注射中止後、低血糖症状を来した糖尿病の一例
吉田病院内科 升味正光
- 四、西城町における循環器疾患の動態
西城病院内科 片山義民
- 五、僻地医療における外傷患者の統計的考察
西城病院外科 西川秀人
- 六、プロトポルフィン製剤(NAPP)の貧血に対する効果について
吉田病院内科 横山行男
- 七、女児全腹筋欠損症(プルンペーリー症候群)の一例
庄原日赤病院 松山正春
- 八、糖尿病性意識障害と誤診し



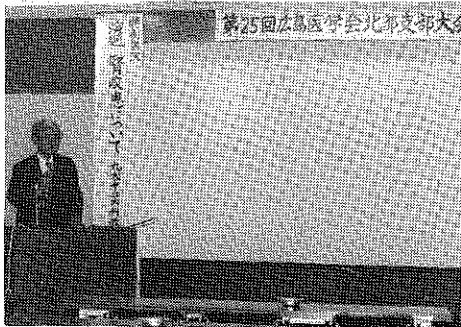
【学会風景】

た脳動脈瘤の一例
西城病院外科 児玉 治

九、亜急性甲状腺炎の臨床経過
西城病院内科 柴田好彦

十、庄原市における健康管理パイロット事業について
比婆地区医師会 堀江久義

研究発表が進むにつれ会員の数も増加し、午前十時頃には参加会員は百名近くにもなった。演者達の研究発表に対する会員諸君の追加討論、質疑も活発で近來にない盛況であった。



【県医師会副会長 林先生】

研究発表終了後午前十一時四十分より県医師会代理として、林

副会長の挨拶があり国民医療非常事態に対処して自由主義社会のものと吾国医療を維持してゆく決意をなすべき時が来たことを強調され会員一同改めて決意を新にした次第である。

昼食頃より雨も止み盛況の会場のせいか肌寒さも和らぎ始め、午後は特別講演として次の二題があった。

一、めまい

広大耳鼻科 原田康夫助教授

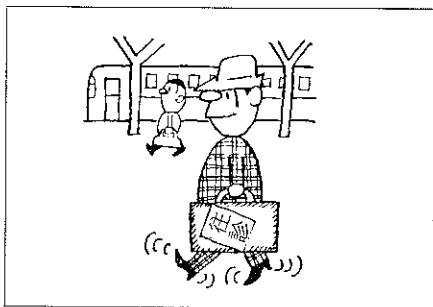
二、腎疾患について

九大第二内科 尾前照雄教授

以上で大会の全部が終了し、右近比婆地区医師会会長より閉会の辞があり来年の開催地は庄原市であると発表された。

懇親会は午後四時より環翠楼に於て行なわれ、星田議長の首頭に於て乾盃し和気あいあいの中に親交を暖め時間一杯迄飲をつくり、来年庄原市での再会を誓って午後六時頃散会した。

(吉舎 田中恭生)



『めまい』について

広島大学医学部耳鼻咽喉科学教室

助教授 原田康夫先生



医学の進歩とともに原因不明の疾患が徐々に解明されつつある。その中において「めまい」の研究もさかんに進められ、耳鼻科医の「めまい」症例に当る機会が多くなってきたのが現状である。平衡感覚はいろいろな感覚器官、主に目、筋肉、関節、前庭器に生じる求心性刺激に基づいているのであるが、何らかの障害がそれらの器官に及んだ時に「めまい」が生じるわけである。「めまい」の定義については諸家によりいろいろ言われているが、我々は「めまいとは、自己の空間識の障害に現われる異常感覚とそれに伴う不快感である」と定義されるのではなからうかと考へる。

以下、臨床医家にとって「めまい」の診断にあたり、簡単な診断法と治療法の概略を述べてみよう。

(A) めまいの感じについて

めまいは、その性質、原因によりいろいろ分類される。患者の訴えから、周囲及び自身の身体が回転する場合を回転感といひ、末梢迷路疾患に多い訴えである。次に浮動感といひ、身体が左右、上下に動く感じから、眼前暗黒感、頭

が軽くなる感じ、立くらみなどは循環障害が疑われ、足腰のふらつきなどは、中枢性の疾患、深部知覚の障害が疑われる。したがってめまいの性質を問診よりききだす事は診断にきわめて大切である。

(B) 一般医家における平衡障害の検査

一、起立試験

両脚直立、片脚直立における身体平衡状態についてみる事がまず大切で、閉眼で片脚直立が出来れば重大な平衡障害はないものといつてよい。開眼でも直立時ふらつき事があるようでは、脳幹又は小脳の障害が疑われる。迷路性の平衡障害の時は閉眼時に身体ふらつきが著明である。

歩行検査、足踏み検査も簡単な検査で、歩行させた時、同じ方向への「偏倚」がある場合は迷路障害の事が多く、「よろめく」場合は中枢神経系の障害、また、両側迷路癱絶(ストマイ中毒)の時などにみられる。閉眼で一〇〇歩足踏みをさせてもこの「偏倚」と「よろめき」はよく検出され、九〇度以上もとの位置に対して回転する場合、よろめく場合は足踏み検査陽性と言っている。

二、眼振検査

被検査者の眼を左右、上下をそれぞれ注視させその時にあらわれる眼振をみる検査で、上及び下と注視した時あらわれる垂直性の眼振は中枢障害という事が出来る。また左右をみたとき振幅の大きい眼振、回旋性の眼振が認められる場合は病的といえる。メニエール病の時には、しばしば、回旋、水平混合型の眼振があらわれる。次に頭位をさまざまに変える事により、迷路内の三半規管、とくに耳石器などを刺激し眼振が誘発される事がある。この方法にはゆっくり頭位を変えて認められる眼振を「頭位眼振」といい、速かに頭位を交換した際起る眼振を「頭位変換眼振」という。

「その他 冷温交互試験(カロリックテスト)、聴力検査、神経学的諸検査を併せて行なうと診断はより正確となる。しかしこれらは紙面の都合で割愛する。

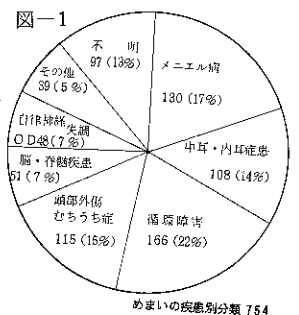
四、自律神経機能検査

schillingのI法を用いて十分間仰臥位、起立直後、起立十分後とそれぞれ血圧測定を行ない、起立十分後の血圧が仰臥位時より十五mmHg(収縮期血圧)以上減少するものを陽性とする。また Aschner氏眼球圧迫試験も行なう事もあ

(C) 診断

診断としては、最近、平衡神経学会でとりあげられた基準をもととするのがよいであろう。これらは表1から表4にかかげるが、症状の寛解していないものは、この診断基準にそわないので、問診を重要視する必要があると思われる。

◎ 広大医学部耳鼻科におけるめまい症例



昭和四十五年〜四十七年の過去三年間に我が教室外来を訪れた総患者数一一、八七一例中、めまい患者七五四例(六・三%) (男性四〇〇例、女性三五四例)であった。「めまい」の疾患別分類は図1の如くで、メニエール病一三〇例(一七%)、その他の中耳、内耳疾患一〇八例(一四%)、脳循環障害一六六例(二二%)、頭部外傷、むちうち症一一五例(一五%)、脳脊髄疾患五十一例(七%)、自律神経失調症、O・D四十八例(七%)、その他三十九例(五%)不明九十七例(一三%)であった。年齢別疾患分類では二十乃至三十代には外傷によるものが多く、四十代になるとメニエール病、五十代、六十代になると脳循環障害が多くなっている。

(D) 治療法

一、メニエール病

発作時にはメロン五十一〇〇mg 静注、Prin peran 一A 静注、Perphenazinの服用などを行ない安静にし、減食塩、水の制限を軽くする。続いて Aminamin 75mg Caplan 六一、Cercine 6mg又はContol 30mgを投与し、その他 Meriston なども加える事があ

- ### メニエール病の診断基準(吉本, 1969)
- (1) 反復性の激しい「めまい」発作。
 - (2) 「めまい」発作に聴覚症状(難聴、耳鳴、耳閉塞感のいずれか)が随伴する。
 - (3) 内耳性難聴の存在。
 - (4) 「めまい」と直接、関連を有する(器質的)原因(疾患)をみとめないこと。
 - (5) 「めまい」と直接、関連を有する聴神経以外の神経症状または中枢障害所見をみとめないこと。

- ### 図一-2 良性発作性頭位眩暈の診断
- 坂口
- 1 頭位の変化によって誘発される回転性メマイ発作。蝸牛症状はあってもメマイ発作に随伴・消長することはない。
 - 2 "Critical position" が明らかなことが多い。
 - 3 眼振やメマイの発現までに数秒の潜伏時間がみられ、眼振は純回旋性でcrescendo から decrescendo を経て消失する。発作中でも元の位置に戻すと速に消滅する。
 - 4 検査の反復によって反応の減衰現象あり。
 - 5 頭位変換検査を行なうと一過性・反対回旋性眼振がみられることが多い。
 - 6 患側の眼球反対回旋機能が低下。
 - 7 中枢神経症状を伴わないことが多い。
 - 8 首傷外傷、頭部外傷、ストマイ中毒、低血圧、慢性中耳炎、遺症がみられる例が多い。

整型形外科的検査であまり異常を認めないものは Lucidinal, ATP, Meriston Cercineの併用療法、時に大星状神経ブロック Propranol (α系容体活動性抑制剤)を投与する。

また頭部外傷後一〜二週間に起る内耳盤蓋症に対しては、副腎皮質ホルモン、ATP、Inositol F、Vitamin, Meriston、精神安

定剤等を適宜併用して好結果を得ている。

三、脳循環障害

起立性調節障害の診断基準 (OD)

大症状:	A 立ちくらみあるいはめまいを起しやすいく	判定基準	小1以上を
	B 立っているとき気分が暗くなる、ひどくなると倒れる		大2以上を
	C 入浴時あるいはいぼやなことを見ると気分が悪くなる		大3の場合を
	D 立ちくらみと動悸あるいは息切れがする		ODとする。
	E 朝なかなか起きられず、午前中調子が悪い		
小症状:	a 顔色が蒼白い		
	b 食欲不振		
	c 胸痛(強い腹痛)をときどき訴える		
	d 倦怠あるいは寝れやすい		
	e 頭痛をしばしば訴える		
	f 薬物を酔いやすい		
	g 起立試験で収縮圧小 16 mmHg 以上		
	h 起立試験で拡張圧低 21 mmHg 以上		
	i 脈拍数増加 1分2以上		
	j 立位心電図のT IIの0.2mV以上の減高		
その他:	その他の変化		

Lucidril, Aplaclin, Viamedin, Cerebro or Control の併用療法、場合により Carinigen を加えている。

四、良性発作性頭位眩暈症

図一4 脳循環障害によるメマイ (angiogenic vertigo)

大症状: ①血圧異常 (低血圧, 高血圧, 起立性低血圧) ②眼底の動脈硬化所見, ③脳動脈写における異常所見。

小症状: ①年齢, 40歳以上, ②頭痛 (特に後頭部痛), ③一過性の意識障害, ④自覚的, 他覚的神経症状または中枢障害を思わせる神経耳科学的所見, ⑤頸椎X線像における異常所見, ⑥Adson 検査陽性または頸部の血管性雑音聴取, ⑦心臓疾患または脈管系疾患。

一過性のメマイ発作

判定基準は大症状3, 大症状2, 小症状1以上あるいは大症状1, 小症状3以上とする。

横になったり、頭を右に傾けたり、寝返った時とか、頭のおかれた状態によって「めまい」が生じ、非常に不安をもたらすのであるが、あえてめまい頭位をとらせる訓練をして、慣れ的作用を利用して治療を行なうと同時に

Carinigen, Alimamin, Control の三者併用療法を行なう。五、自律神経失調症患者に病気の内容を十分に理解させ、医者との疎通性を十分に保つことが必要で、同時に Meriston, Carinigen, Alimamin, Control or Cerebro の併用療法、さらに Bellergal を投与することもある。ODについて

双三地区医師会臨床検査センターのあゆみ

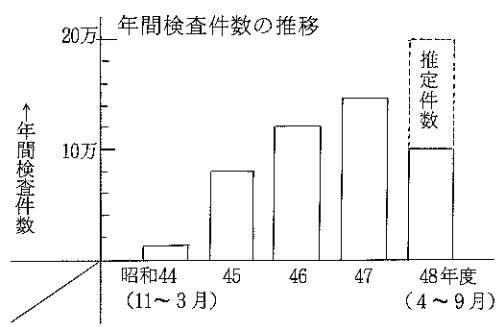
長船理事・土岡所長

双三地区医師会臨床検査センターが昭和四十四年十月十一日に設立されて、翌十一月より検査業務を開始して以来満四周年を迎えました。

その間当該地区医師会の諸先生をはじめ隣接の各地区医師会会員の諸先生方の絶大なる御支援ならびに御協力を賜り今日まで順調な発展運営が出来てまいりましたこと御同慶の至りと感謝致しております。このたび双三地区医師会報「巴杏」の発刊に際し過去四年間における検査センターの概況を御報告申し上げます。

年間検査件数の推移

別表に示しましたように年間検査件数も年々増加し、前年度比率としてはそれぞれ三十余%増加してきております。現在一か月平均検査件数は約一万六千五百件で、今年度推定年間件数は二十万件に及ぶほどになりました。



いはば Carinigen のみで治療できると考えている。以上だいたいの治療法をあげたが、治療を施したのにもかかわらず、症状が持続性、進行性の場合には、精査を受ける必要があり当科へ紹介していただければと考えている。

精度管理 臨床検査の精度管理につきましては常日ご努力を重ねておりますが、幸いにも日本医師会主催の精度管理調査において、昭和四十六年度、四十七年度と二年連続して優秀施設の一つとして評価していただく事が出来ました。今後ともより一層の精進を重ね諸先生方から信頼していただける臨床検査センターとすべく努力

必要と思えます。集配業務

検査センター設立当初は双三郡三次市を中心に庄原市、甲奴郡方面を担当者二名にて週二回の割合で集配致しておりましたが、昭和四十五年には甲田、吉田、向原方面を加え、更に昭和四十八年より世羅西、八千代方面も加えることになりました。

現在、担当者一名、パートタイマーの方二名交替にて各医療機関を週三回巡回し、その最長コースは百五十キロメートルに及ぶ状態となり、ほぼ県北全体を集配している現状であります。県医師会交付金による設備の拡充

昭和四十六年、四十七年、四十八年と三か年間にわたり県医師会より補助金交付を賜る事になり、検査室の増築(五十四平方メートル)、検査器械設備品の購入(遠心器、分光光度計、自己濃度換算計、自動血球計算器等)集配のための自動車の買換え等の経費に充当することになり、より一層検査センターの充実をはかることが出来ました事を心から感謝し、お礼を申し上げます。

職員構成

開設当初、事務集配担当者三名検査担当者一名にてスタートと致しましたが、現在検査担当者十名、事務集配担当者三名、計十三名とパートタイマー二名の人員に増加し日常の業務を遂行いたしております。後日機会をいただきました職員のプロフィール等を御紹介させていただきますと思っております。

抗動脈硬化剤
抗キニン性・抗遅延型炎症反応因子性
血管透過性亢進阻止剤

ANGININ

BANYU PHARMACEUTICAL CO., LTD

新炎症・腫脹緩解酵素剤

ダーゼン錠

「タケタ」 消炎・腫・血腫・粘液融解

武田薬品工業株式会社

緑陰随想

副会長 鳴戸謙隆

昔は、ゴルフなどはブルジョアの遊びであり、私がゴルフをする事など一生あり得ないと思っていたが、ふとしたはずみでゴルフを始めて以来、最近ではゴルフなしで「何がこの世かな」の感がある。私が、ゴルフを始めたのは昭和四十年五月、三次に初めて練習場が出来た時からである。

練習場でボールを打っている連中を見てみると、何と「下手くそだなあ」と思い、俺が一つうまいところを見せるとクラブを握り、力一杯叩いたが空振り。自信を持っていたので頭に来た。何回もやるうちに漸く当たったがボールはスライス、その次に漸く一三〇ヤード、段々なれてきたが、仲々飛ばない。如何にすれば飛距離が伸びるか考えた。よく見てみると先輩達はフォームが悪い。野球で言えば、王と長島の打撃フォームが異なるように、個人によってフォームが違ってもよいはずである。色々とアドバイスも受けたが聞かないことにして、すべて自己流であれこれやってみた。クラブによつて打たれたボールは如何にして飛ぶのか、スライスやフックは如何にして生じるかを考え、私は私なりに研究し、これを実行することにより段々に上達した。失敗成功を繰り返して、今日に至っている。

このように私は私なりのゴルフ理論を考えており、これもゴルフの楽しさの一つであるが、他にも私がゴルフのトリコになっている理由がいくつかある。まず空気の良いところで体を適当に使うのでゴルフ後の体調は快適である。又、他のスポーツと比較すると、ゴルフは自分が監督であり選手である。つまり、自分で組み立てた理論を自分で思うがままに実践できるわけである。それに変化が多い。例えばボウリングでは何時も同じ状態にあるが、ゴルフでは、地形、天候、芝等の変化に応じてプレーすることに、面白さが倍増するのである。

老医の修学旅行

三和町 佐藤 博

フは自分が監督であり選手である。つまり、自分で組み立てた理論を自分で思うがままに実践できるわけである。それに変化が多い。例えばボウリングでは何時も同じ状態にあるが、ゴルフでは、地形、天候、芝等の変化に応じてプレーすることに、面白さが倍増するのである。

六十の手習いと言われますから七十の修学旅行も当然です。今月六日、屋羽田を立ち夕方方タイに着き、折柄猛烈なスコールに会いましたが、間もなく晴れ、日本の如き蒸し暑さもなく、空港より二十八kmの直線道路を経てホテルに着バンコクは、人口二五〇万余の都市にて、ホテルは十七階建て、自動車も多く昔の観念で来てみて驚きました。仏教国にて至る所に寺院と黄衣の僧侶が居り、大寺院は大尖塔を数個建て、規模大にて荘厳です。又、メナム河の水上市マーケットは、誠に奇異ですが、白老のアイヌの如き観光源かと思われました。次は、赤道直下のシンガポールですが、昔の大英国の基地だけに整い、先ず初めにガイドが、紙類、煙草の吸殻、痰つば等道に落とすと、五〇〇ドルの罰金

と注意します如く、青い森のある清潔な市街地で、ホテルには古い英国流の帽子を被れる男二人接待に出るは面白く有りました。華僑の資本家のヒスイの家、ラン植物園等豪勢です。驚いたのは、日本の大林組が、昔の港を埋立中で、独立国シンガポールを少しでも拡大する計画です。次は、インドネシアのジャババのバリ島空港に降りました。赤道より南二十度の所で、ホテルは海岸にあり、海辺にはヤシの森あり、プーゲンベリヤの花咲乱れ雨米に來た気分を満喫しました。ヤシの木影で裸で踊るのは昔の観念で紫檀の彫刻、サラサ織ベツ甲の産地です。尤も観光客の為に、踊小屋は数か所あり我々も見物しました。日本人によく似た美人の踊り子が沢山居りました。これにて終って、十二日夜東京に

ニックネームの思い出

(匿名)

地区医師会誌に大変意味深い良いネームが選ばれた事を喜びます。ニックネームについて色々と思いを凝らしている中、何とはなしに自分の昔の事を思い起したので笑話になれば幸と思ひ一筆書きします。中学校に入学して間もなくクラスメートのA君が、僕をタクと呼ぶ様になり、何の事か判らないでいた。丁度その頃、国語読本の一節に「タク喜びて曰く云々」と言うのがあり僕に事寄せてニックネームは急にクラスに広まりました。初めA君がつけたのは、その頃僕の祖父が医者を開業していて、その名を玄澤と呼びましたから、A君がそれを知ってつけたものと考えていました。そこでB君に君は、何故僕をタクと呼ぶか」と質問した処、彼答えて曰く、君のズボンの前の辺がたくしなつて見えるからだと言った。なる程、その頃は、グングン成長しつつあったし、小倉服が小さくなった奴を洗濯した為、他人の目からは斯く見えたのかと合点した訳です。その後、生意氣と希望みたいなものが入り混って、自ら深洋と号して得意となつたものです。その意味は、読んだある本の中の一節に「未終に海となるべき谷水も言はず葉から考え出したものでした。その後、大学予科に入つてから時々酒を口にする様になり大きな気分になつて吞州と自ら叫んだものでした。

然し、自分が考え出したネームは、誰も呼んでもくれず通用するものでもありませんが、青少年時代にクラスメートにつけられたニックネームは、一時的にせよ広く知られ且又、未長く頭に残るものだと思います。自ら豪語した吞州も、今となつては、どうやら鈍衆と化しつつある様で残念に思っています。

静愚感

三良坂 高場賢治

大いなる希望に明けた七十三年であったが、早いもので、今暫くで暦の最後を迎え様としている。今年も随分色んな出来事があった。お尻の仕末どうするのと言う時代

汚職、横領、殺人お茶の子サイサイ、コンピナートの相次ぐ爆発、公害、それに関連した物質の不足。

だから、大変である。道路の建設、新幹線工事等々、日本中は今や掘り返され、ひっくり返った様な様相を呈している。加えてアラブ、イスラエル戦争によるしわ寄せが突如として、この日本を襲ったから、大変なものである。何れ世界は、いや地球はエネルギー資源の不足に悩む時代が来る事は、学者の常識であるが、こうも突然現実となってくるとは、日本のお偉方も予想もしなかった事であろう。これから寒くなる日本は今や石油電力ケチケチ令で耐寒生活を余儀なくさせられそうである。耐寒位はまだしも、石油化学万能の現代、これが長く続くと日本産業に萎縮が起る事は言をまたない。そこでさあ、これ見よと許り、もも引きにチョッキを着込んで暑い暑いと言う田中総理の姿は、国民へのお手本のつもりかもしれないが、これは、まぎれもなく政府の無策無能を天下にさらした現代日本の漫画である。現在の医療問題にしても、中医協問題にしても政府が今迄で積極的な解決策に動かなかったのは、政府と大企業財界との黒いつながりのしからしめたものであり、低医療費政策を医師の犠牲に於て強行して来た政府も去る事乍ら、大企業の影なき暴力に私は強い憤りを覚えるのである。ともあれ、年末を控えて、アラブ紛争の余波は、全世界に耐乏の二字を思い起こさせた感じだが、石油ケチケチ令の効果は、マイカー族の行楽自粛にかなりの効果を見せて来た様で、これはこれで誠に結構な事だ。排気ガス、騒音公害、カーラッシュに悩まされ静かな生活

を楽しみ度いと思う人達には、やれやれと言う所だろう。本当に何処に行っても落着かないこの頃、私はこの夏、出雲路を訪れた時、自分の目を見張る様な田園の佇まいに接して、今でもこんな所があったのかと驚いたのである。国道九号線を松江から出雲へ向う途中で右へ折れ、出雲空港を右に見て北上すると、家並の跡切れた遠端眼前に目に沁みる様な真青な田園の佇まいが展開したのである。見渡す限り整然と区画整理された眩しい許りの青田、工場もなければ煙突もない。その中に出雲特有の松の防風林に囲まれた昔乍らの農家が点在するのである。我々の周囲にも一杯田園があるが、その周囲には煙突が煙を吹き、ブルがうなり声をあげ、立看板が目飛び込んでくる雑然たるものである。ここは違う。そんなものは全く無いのである。本当の純農村地帯。私は車を止めて、暫しその静寂と新鮮なる緑に見とれたのである。山陰にもこんな所は他に見られない。宍道湖が西にはてる処、宍道湖の水が疎水となって流れ込む平田市の一角である。私達は、そこから尾形船で宍道湖へ出た。山陰特有の素晴らしい夕焼け雲が宍道湖をそめていた。神秘的にして雄大な湖上の落日の一時であった。疎水の途中に橋がある。橋は開閉式になっていて、船頭さんの家族が先に待ち受けて居て、その開く橋の中央部の端にロープを括りつけて、エンヤコラと許り引っ張ると、ぶん回し式にギョッと、橋ゲタが開く寸法である。全く昔乍らの手動式であるが静かな朴訥な雰

囲気に浸っていた私達には本当に心なごむ光景であったのである。とっぷりと暮れた湖上で、屋形船の灯めがけて飛んでくるボラの群れに歓声をあげ乍ら、そしてはるかにまたたく松江の夜景も又、素

ぶろつくたより

▽十日市医会

家族ボウリング大会の記

三次市十日市町 有 信 敬 一

去る十月二十五日夕、十日市医会では、三次リバーサイドボウルに於て家族ボウリング大会を行なった。医師会員相互の往来は日頃学会、ゴルフ大会等で保たれているが、会員夫人と顔を合わせる機会が減多にないということで試みられた企画である。

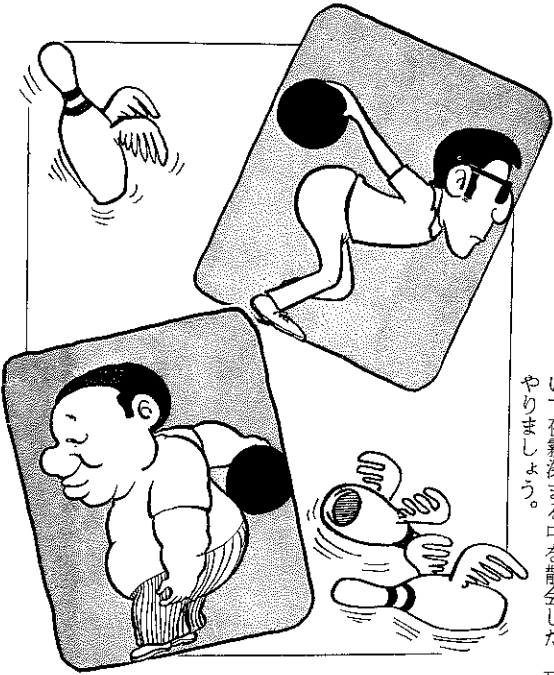
扱、定刻の七時前には全員集合（十九名）、欠席と聞いていたK先生のお顔も見えない。早速インタビューすると「……家内の方がハッスルしてのう……」とのこと（善き傾向）。初めてのことなので今回は、男女別々で組合せをつくる。まず各自3フレーム宛ウォーミングアップの後ゲーム開始。皆様お年の割には、足腰の動きが柔らかなく、手と足と口も使う賑やかなゲームであった。N先生「あんたのは、フォームがいけん」、O先生「先生のゴルフのフォームと同じじゃが」。又、溝掃除も、しばしば怠りなく行なわれていた

晴しいものであった。静なる息吹き、静へのいざない、そんな思いに浸り乍らも又、あわただしい毎日を繰り返して行くのである。

を出し、見せ場をつくるころなぞ、天晴れなものであった。尚成績は左記の通り。

- 男性の部
- 一位 酒井先生（実力をいかになく発揮）
 - 二位 長船先生（意外に？強し）
 - 三位 鳴戸先生（ゴルフもつまりが、ボウリングもつまり）
- 女性の部
- 一位 黒瀬先生（会員の方にを入れて貰わにやとの声あり）
 - 二位 小川先生夫人
 - 三位 板橋先生夫人（両方とも、おとうちゃんより上）

以下省略するも実力伯仲。点数は◎。ミーティング後、各々賞品を抱いて夜霧深まる中を散会した。又やりましょう。



吉舎医師会

旅行記

岸田久



昭和四十七年度は、十月二十日(土)、二十一日(日)、の二日間の日程で行いました。毎年一回の此の一泊二日の旅行は、毎日多忙の診療業務に過している我々開業医にとっては、又とない楽しい、業務を離れて開放感を満喫できる二日間です。

土曜午後三時吉舎を出発、広島市宇品港より、カーフェリーで江田島小用港に上陸、黄金色に色づいた密柑山を眺めながら、海岸を一時間走り、大柿町大君海岸に停泊。海上ホテル、こがね丸に到着、当夜は此の船に一泊することになる。その昔、大阪別府航路を走った、関西汽船会社の豪華船(六二五トン)で、船底は網を張った自然水族館が見られるようにしてあり、大きな鯛やちぬなど多数の魚が泳いでおり、夜の御馳走は、此の魚が材料と聞きました。

昭和四十八年四月一周年十一月

医師会だより

4月12日(木) 理事会 午後四時三十分

出席者: 得能会長・鳴戸・荒瀬 両副会長・津島・田中・永井・長船理事

- (1) 結核予防法関係。得能長紋。三次市福祉事務所。鳴戸謙隆 県福祉関係。 荒瀬秀隆
(2) 全国区参議院議員立候補者 丸茂重貞議員推薦の件。
(3) 産業医の件。手引を全会員に配布。
(4) 中医協の審議状況ことに、医療費のスライド制について。
(5) 検査センター職員福利厚生に関する件。

5月7日(月)・12日(土)

三次保健所及び三次消防署より入院患者を有する各病院に対し、入院患者の緊急避難の施設及びその対象ならびに火災予防及び消防対策に関し、現場視察。

5月18日(金)

一回双三地区消化器疾患研究会。午後六時。 広大医学部第一内科の御協力により実施。

5月22日(水)

検査センターより、検査物集配コース等の変更を全会員に連絡。 (1)月・水・金集配コース。 A 鳥敷一塩町一三良坂一吉舎 一甲奴一上下。

- (B) 庄原一高一和田一田幸一三 和一世羅西一川西。
(2) 火・木・土集配コース。 (A) 粟屋一君田一布野一作木一 高宮。
(B) 志和地一甲田一向原一吉田
(3) 三次町・十日市町(酒井医院迄)は、アルバイトにて月水金に集配。
(4) 土曜日集配は、午前中に実施。
(5) 実施開始期日・五月二十八日(月)より開始。

6月6日(水)

循環器疾患モデル地区打合会。午後一時。 三良坂小・中・鳴戸副会長出席

6月16日(土)

川西診療所竣工式。 6月20日(水) 特別委員会。午後五時三十分～六時。 出席者: 得能会長・鳴戸・荒瀬 両副会長・長船理事。(欠席永井理事)

6月20日(水)

第二回双三地区消化器疾患研究会。午後六時。 演題「胃の内視鏡検査」 講師・広大医学部第一内科 山岡義文先生

7月24日(火)

第三回双三地区消化器疾患研究会。午後三時三十分。 演題「若年者胃がんについて」 広大医学部第一内科講師 奥原種臣先生

- 出席者: 得能会長・鳴戸副会長 横山・小川・中村・田中・佐伯 永井・長船各理事・星田議長・野島副議長。
協議事項
(1) 文書料改定料金表印刷の件。
(2) 吉益東洞記念碑建立募金の件。
(3) 北備医学会の件。
(4) 検査センター増築完成の件。
(5) 検査センターの現況と増員ならびに委託生の件。
(6) 看護婦給与の件。
(7) 諸報告

7月27日(金)

双三地区医学講演会 午後六時。 演題「小児喘息について」 東京国立小児病院アレル ゴー科医長 村野順三先生

8月25日(土)

内分泌疾患について 広大医学部第二内科の御協力により実施。午後六時。 演題「糖尿病について」 広大医学部第二内科講師 川手亮三先生

8月26日(日)

広島県臨床検査技師連絡協議会。 9月6日(木) 理事会。午後四時 出席者: 得能会長・鳴戸・荒瀬 両副会長・横山・津島・小川・佐伯・永井・長船各理事・星田議長・野島副議長。

7月27日(金)

理事会。午後四時。 協議事項 (1) 新し診療体制について。 (2) 医師会館並に検査センター職員慰安旅行費補助について。 (3) 広島医学会北部支部大会案内 状発送と演題締切の件。

(4)丸茂議員後援会事務所設置の件。

(5)双三地区医師会会報発行の件
編集委員・顧問・野村節也先生・田中恭生・永井又太郎各理事・箕岡源二・岡崎邦之・藤谷博義・小川泉・岸田久各先生と決定。

(6)三次保健所より、乳児医療費の公費負担に関する連絡。

9月9日(日) 双三郡作木村・森増医院早朝に全焼。

9月14日(金) 第四回消化器疾患研究会。午後六時三十分。
演題「胃腸薬の使い方」
廣大医学部第一内科教授 三好秋馬先生

9月18日(火) 第一回会報編集委員会。午後四時。
出席者 得能会長・鳴戸副会長 編集委員 全員出席。
協議事項
(1)本年十一月に、創刊号を発行し、以後二月・五月・八月・十一月と年間四回を目標に発行する予定。
(2)会報のニックネームを全会員から応募。
(3)編集委員の各先生に仕事の分担を決定。

10月4日(木) 特別委員会。午後五時。
出席者 得能会長・鳴戸・荒瀬 両副会長・永井・長船理事及び 医師会館・検査センター職員全員。
自由懇談形式により、(1)基本給昇給の件。(2)諸手当(危険手当、運転手当)の件。(3)集配時間の件

10月5日(金) 双三中央病院院戴帽式。午後一時三十分。
10月9日(火) 理事会。午後四時三十分。
出席者 得能会長・鳴戸副会長 横山・田中・永井・長船各理事 星田議長。
協議事項
(1)広島医学会北部支部大会の準備打合せ。
開始時刻・特別講師・昼食弁当代・懇談会会場並に会費・一般会員研究発表時間七分・当日の役割など決定。
(2)新診療体制に関する当地区の今後の展望について。

10月9日(火) 第二回会報編集委員会。午後七時。
出席者 得能会長・鳴戸副会長 田中・永井両理事・藤谷先生
協議決定事項
(1)会報のニックネームを「巴杏」とする。
(2)十月二十五日迄に、全会員より原稿を応募する。
(3)「巴杏」を長老の森戸先生に書いて戴く。

10月21日(日) 第二十五回広島県医学会北部支部大会開催(詳細別記)
一般講演十題
特別議題
(1)めまい
廣大耳鼻科助教授 原田康夫先生
(2)腎疾患について 尾前照雄先生
九大第二内科教授

10月30日(火) 特別委員会。午後四時~六時三十分。
出席者 得能会長・鳴戸・荒瀬

11月15日(木) 第三回会報編集委員会。午後六時三十分。
出席者 野村顧問・田中・永井 両理事・小川泉・岡崎両先生・協議事項
(1)パネルのスポンサーは、ケンコー産業。
部数一〇〇~一五〇部。
詳細のデザインは、藤谷先生と協議。
(2)創刊号の原稿締切りを、十一月二十日迄とし、田中・岸田・鳴戸・高場賢各先生より投稿決定。
(3)佐々木先生のお世話で、左記製薬会社より金一封の寄付あり。吉富製薬・武田薬品・万有薬品・第一製薬。
各スポンサーよりのデザインは、田中先生が、佐々木印刷と直接交渉。
(4)創刊号に、当医師会館の全影写真掲載。
(5)創刊号の配布月日は、十二月中旬を最終目標とし、発行部数二〇〇部。
ただし、発行年月日は、昭和四十八年十一月一日とする。
(6)投稿者の原稿は、永井先生に

校正を一任し、併せて編集も一任。
(7)当医師会に關係した行事。(理事会・研究会・学会等)は、今後詳細な記録が必要。
(8)次号より、各会員の家族紹介欄を設定。
(9)諸行事が、当医師会内の各ブロックで開催されたときは、その行事内容を投稿してもらう。
11月26日(月) 学術講演会。午後四時~六時。
演題「電解質と臨床」
国立岩国病院外科部長 三村久先生 (永井記)

編集後記



霧の海に霞む今日この頃、漸くにして会員待望の会報発刊を実現できたことは、御同慶に堪えません。実のところ、創刊号とあつてもっと多くの御寄稿を期待していましたが、予想外に少なかつたことは、些か心淋しく思います。しかし、奮って御玉稿を賜わった諸先生に対しては、深甚な感謝の意を表しますとともに、ことに長老の森戸登守先生より、会報の題字を御執筆賜わったことは、大変貴重なことであり、有意義なこととして、僭越ながら全会員を代表して、厚く御礼申し上げます。何分とも新生児のため、今後健やかに成長、発育できますよう次号からは、奮って数多くの御投稿を期待して止みません。
編集も不慣れのため、諸先生の御期待に添い得なかつたことを御寛容ください。向寒の朝、御健勝を祈ります。 永井 記

Daipin 消化器系鎮痛・解熱剤
上腹部痛に制酸剤の効果持続に...
ダイピン錠
一般名Nメチルスコポラミン・メチル硫酸塩 識別番号106
第一製薬株式会社 東京都中央区日本橋三丁目14番10号
CERM社(株)フランス提供品

鎮痛・抗炎症剤
バンフラン®カプセル
一般名=塩酸チノリジン (単位当り ¥28.00)
製造=吉富製薬株式会社
販売=武田薬品工業株式会社